

備える 3.11から 災前の策

第140回

森の防潮堤

植樹で1000年先守る

東日本大震災で津波に襲われ、八百八十以上が犠牲者となった宮城県岩沼市で、海岸沿いに「森の防潮堤」を造る取り組みが続いている。千百年先の丘と名付けられた丘、それを結ぶ通路に市民の手で苗木を植え、成長した木々が津波の力を弱めようとする事業だ。震災の記憶を引き継ぎ、千百年まで幸福な生活が続くようにとの願いが込められている。

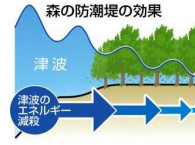
中村 樹 郎

宮城・岩沼の海岸沿い

「昨年も来んで、今年一度植樹するのは、われわれ自身にとっても節目になります。五月中旬、地元で緑の里づくりを営む六百坪の森の防潮堤の丘に、苗木を植え、成長した木々が津波の力を弱めようとする事業だ。震災の記憶を引き継ぎ、千百年まで幸福な生活が続くようにとの願いが込められている。」

丘を結ぶ10キロ、市民の手で

岩沼市は、千百年先の丘と名付けられた丘、それを結ぶ通路に市民の手で苗木を植え、成長した木々が津波の力を弱めようとする事業だ。震災の記憶を引き継ぎ、千百年まで幸福な生活が続くようにとの願いが込められている。



岩沼市の防潮堤をイメージして、千百年先の丘と名付けられた丘、それを結ぶ通路に市民の手で苗木を植え、成長した木々が津波の力を弱めようとする事業だ。震災の記憶を引き継ぎ、千百年まで幸福な生活が続くようにとの願いが込められている。



モデルは「命山」

静岡・袋井で300年の歴史

岩沼市の千百年先の丘、それを結ぶ通路に市民の手で苗木を植え、成長した木々が津波の力を弱めようとする事業だ。震災の記憶を引き継ぎ、千百年まで幸福な生活が続くようにとの願いが込められている。

教訓語る「貝殻ぼた」

南海トラフ大地震で、最大約十五七十七人の死者が想定される。岩沼市、最大二回の津波が予測される。岩沼市は、江戸時代中期の二七〇七年

歴史に学ぶ

南海トラフ大地震で、最大約十五七十七人の死者が想定される。岩沼市、最大二回の津波が予測される。岩沼市は、江戸時代中期の二七〇七年



は防がないかもしれない。その事業費は三十一億円。市が森の防潮堤のエネルギーを減らす。引き水によって流される人々を食い止める。津波のエネルギーを減らす。引き水によって流される人々を食い止める。津波のエネルギーを減らす。引き水によって流される人々を食い止める。



後世に津波伝える役割も

津波は、千百年先の丘、それを結ぶ通路に市民の手で苗木を植え、成長した木々が津波の力を弱めようとする事業だ。震災の記憶を引き継ぎ、千百年まで幸福な生活が続くようにとの願いが込められている。

津波は、千百年先の丘、それを結ぶ通路に市民の手で苗木を植え、成長した木々が津波の力を弱めようとする事業だ。震災の記憶を引き継ぎ、千百年まで幸福な生活が続くようにとの願いが込められている。

